くまびょうNEWS 122号
くまびょうNEWS
2007年8月1日
[発行所]
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL(096)353-6501(代)
FAX(096)325-2519

平成19年度 第1回(通算第24回) 開放型病院運営協議会開催される

平成19年度第1回（通算24回）の国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が2007年7月18日（水）午後7時より地域医療研修センター会議室にて開催されました。熊本市医師会からは医師会会長で当運営協議会委員長の福田稠先生、熊本市医師会理事の田中英一先生、清田武俊先生、竹下一幸先生にご出席頂きました。当院からは院長、副院長2名、統括診療部長が委員として、他に事務部、看護部および事務局より3名が出席しました。

まず院長が日頃よりご指導頂いている医師会長はじめ医師会委員の先生方にお礼をのべ、病院の現状、特に新病院建築の進捗状況について報告を行いました。続いて福田委員長より、医療連携の重要性を強調されたご挨拶を頂きました。議事では、事務局より、登録医数、最近の訪問医師数、訪問回数、共同指導算定実績、「くまびょうニュース」の発行状況、第22回開放型病院連絡会（2007年2月14日）の出席者数などが報告されました。医師会員の先生方より、本年度になり共同指導算定数が伸びていることを評価して頂き、また第22回開放型病院連絡会での厚生労働省近畿厚生局長、松本義幸先生の特別講演が好評であったとの評価を頂きました。

ついで平成19年度第1回（通算第23回）の開放型病院連絡会の開催について協議され、2007年9月26日（水）午後7時よりくまもと県民交流館パレアで開催することが決定しました。

内容は、パレアホールでの総会で福田運営協議会会長のご挨拶、症例呈示、登録医の先生方に意見を述べて頂く「パネルディスカッション」を行い、その後、会場を鶴屋ホールに移して懇親会を行うことをご承認頂きました。パネルディスカッションではパネラーに「地域医療計画」に関連したご発言もお願いしたらどうかとの指示を頂きました。

多数の先生方に開放型病院連絡会にご参加頂きますようお願い致します。お車でお越しの場合は、少し遠方ですが城内プール跡地の国立病院機構熊本医療センター駐車場に駐車して頂き、駐車券を会場にお持ち頂きますと無料化処置を致しますので、ご利用下さい。

これからも病診・病々連携を推進し、地域医療に貢献できるように努めてまいります。今後とも宜しくご指導賜りますようお願い申し上げます。

（副院長　池井　聰）

第23回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催のお知らせ

標記連絡会が下記の要領で開催されます。多数の御参加をお待ち致します。

日　時　　2007年9月26日（水）19時～21時
場　所　　〒860-8554　熊本市手取本町8-9 テトリア熊本ビル くまもと県民交流館パレア
　　TEL　096-355-4300（代）
内　容　　1．開放型病院連絡会総会（10階 パレアホール）
　　1）紹介症例の呈示　　2）パネルディスカッション
　　2．懇親会（7階　鶴屋ホール）懇親会の会費5,000円は、当日受付で申し受けます。

なお、当日会場にて新規登録医の申請もできます。登録医証（5ページを参照下さい。）の発行をご希望の先生は、会場で写真撮影を実施させて頂きます。また、施設見学（MRI、マルチCT、ガンマカメラ、心血管造影室、その他）をご希望される先生は、18時30分までに病院玄関にお集まり願います。見学終了後、タクシーにて連絡会会場までご案内致します。なお、お車でご出席される先生方は、城内プール跡地の当院専用駐車場をご利用下さい。その場合、駐車券を会場にお持ち下さるようお願い致します。

【参加申込先】国立病院機構熊本医療センター管理課（担当：西田、牧野）
〒860-0008 熊本市二の丸1-5　TEL 096-353-6501(内線390)

「眼疾患と他科との関係について」

医法）稲田会
いなだ眼科
院長 稲田 晃一朗

いつも大変お世話になっております。早いもので、平成9年4月に花園の本妙寺参道沿いに眼科医院を開業しまして、10年が過ぎました。この間、眼科的な検査や手術治療のためにたくさんの患者様を眼科の先生方に御紹介させて頂きました。その他にも、眼科的な訴えや、眼所見から見つかった、高血圧、糖尿病、甲状腺疾患、中枢神経病変、内頚動脈病変等の患者様方をそれぞれの専門の先生に御紹介させていただきました。開業してから、眼所見と全身状態の関係の深さを、実感させられております。

さらに大学病院におりました頃にぶどう膜炎（内眼炎）の患者様を診せていただいておりましたことから、現在も、ベーチェット病、サルコイドーシス、原田病やリウマチ関連疾患等の患者様方も来院しておられ、各科の先生方にお世話になっております。また、不幸にして、視覚障害を残された患者様には、ロービジョンケアの対応（視覚障害の方へのリハビリテーションと考えていただいてもよいかもしれません）をさせていただいております。

私自身も、3年前に左手首の橈骨骨折をおこし、整形外科の野村一俊先生、麻酔科の江﨑公明先生始め、たくさんの先生とスタッフの皆様にお世話になりました。おかげさまで、左腕の状態は良好です。ありがとうございました。

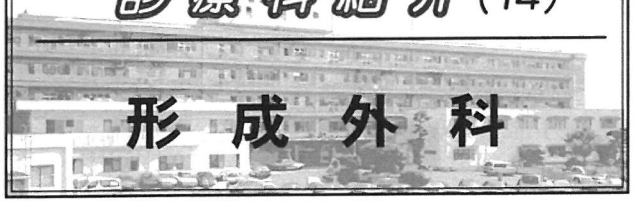
また最近、抗ヒトTNFαモノクローナル抗体が、眼ベーチェット病の患者様にも使用可能となり、眼発作を繰り返す難治性の患者様への使用の際には、担当していただく先生方に色々とお願いすることもあるかと思います。眼科領域の中でも、炎症性疾患、神経眼科領域、眼循環障害によるもの等は、全身疾患との関係が深く、色々な科の先生方との連携が必要です。今後ともよろしくお願い申しあげます。

平成20年度 専修医（後期臨床研修医）を募集します

応募資格：2008年3月31日までに臨床研修を終了する見込みの者または2年間の初期臨床研修終了者
研修期間：3年間（希望により5年間）
研修内容：幅広い臨床能力と高い専門性を持つ臨床専門医を育成します。
希望者は研修期間中にナショナルセンター（国立高度専門医療施設）や他の国立病院機構病院、大学病院との交流研修、米国Veterans Hospitalへの海外留学が可能です。
内科系総合専修コース：内分泌・代謝、血液・膠原病、腎臓、神経、循環器、消化器、呼吸器、精神、小児、放射線、病理、救命救急から複数のプログラムを選択します。
外科系総合専修コース：消化器、呼吸器、乳腺、心臓血管、骨・運動器、脳、眼、耳鼻、皮膚、形成、女性疾患、泌尿器、麻酔、病理、救命救急から複数のプログラムを選択します。
研修終了後の資格について：関連学会の専門医の取得が可能です。また国立病院機構の専修医認定証が授与されます。
募集人員：内科系総合専修コース・外科系総合専修コース各若干名
給　　与：当院規程による
選考方法：書類審査、面接等
願書締切：2007年12月28日（金）

応募される方は事前に下記までお問い合わせ下さい。
〒860-0008　熊本市二の丸1-5
国立病院機構熊本医療センター　事務部管理課給与係長　鶴見
TEL096-353-6501（代）内線621　FAX096-325-2519
詳細についてはホームページをご覧下さい。http://www.hosp.go.jp/~knh

2007 診療科紹介(14)



形成外科

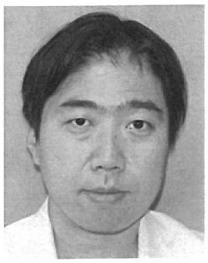
診療実績／手術件数

2006年度

外来新患：577名

新入院患者：326名

手術件数：332件（外来処置を除く）



大島　秀男

形成外科一般、先天異常
頭蓋顎顔面外科、熱傷
眼瞼・眼窩形成
乳房再建、陥没乳頭
マイクロサージャリー

日本形成外科学会専門医

池山　有子

形成外科一般、熱傷
顔面外傷・四肢外傷、腫瘍・母斑
ケロイド・瘢痕

診療内容と特色

熊本県の総合病院では熊本大学附属病院についで形成外科を標榜する施設であり、2005年度より日本形成外科学会教育関連施設に認定されています。現在2名で外来診療、手術、救急診療にあたっています。

形成外科で扱う分野には

1）先天異常、2次的に生じた変形などの異常な形態を正常な形態にする（形を造る：形成外科）。
　口唇口蓋裂、小耳症、埋没耳、多指症・合指症など。

2）外傷・熱傷、腫瘍切除などによる組織欠損の修復、現状回復をする（形を治す：再建外科）。
　顔面外傷・骨折、熱傷、腫瘍・母斑、顔面神経麻痺の表情再建、乳房再建など。

3）正常な形態をさらに美しく修正する（形を変える：美容外科）。
　腋臭症、陥没乳頭、二重瞼など。

という3本柱があり、体表の形態異常、外傷全般の診療を幅広く行っています。手術においては先天異常、腫瘍・母斑、ケロイド瘢痕、眼瞼形成、四肢・頭頸部再建を主体に美容外科も取り入れて「きれいに治す」ことを目指しています。特にケロイド瘢痕の治療では手術療法に放射線療法を併用し、極めて良好な成績が得られています。

最近は高齢化社会の為か、悪性腫瘍、難治性潰瘍や老人性眼瞼下垂の患者様が増加しています。また顔面外傷・骨折、熱傷などの救急医療にも力を入れています。

研究実績

当科の臨床的研究テーマは創傷治癒と組織再生であり、これまで厚生科学ミレニアムプロジェクト「同種培養真皮による創傷治療の共同臨床研究」に参加してきました。2005年度より国立病院機構共同臨床研究「効果的な幹細胞移植法」に取り組んでいます。

ご案内

外来診療は月、火、木、金の午後、大島、池山が担当しています。春休み、夏休みは就学児童の手術が集中する為、早めの御来院、御予約をお勧めしています。患者様の御紹介は直接お電話、ファックス（FAX番号：096-323-7601）を頂いても、患者様に紹介状を託して受診して頂いても結構です。時間外、救急診療はon call体制で対応しています。また昨年6月よりQスイッチルビーレーザーを導入し、シミ・アザのレーザー治療を開始いたしました。

今後とも病診連携を主体とした地域医療のネットワークの中でより良い医療を提供できるよう努力していく所存ですので、あらためて一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先　〒860-0008　熊本市二の丸1-5
　　国立病院機構熊本医療センター　『くまびょうNEWS』編集室まで

医学シリーズ No.147　消化器科（No.12）

最近のトピックス

高齢者へのインターフェロン少量長期投与

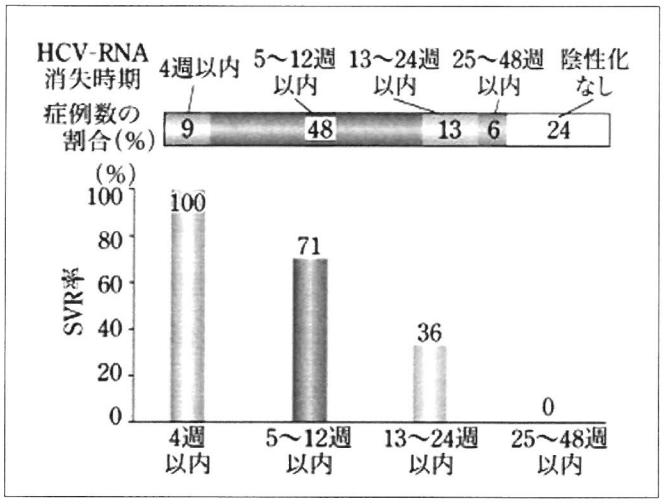
消化器病センター
消化器科
片山　貴文

新しいインターフェロン治療である、ペグインターフェロン療法が2003年に保険適応になり、最近ではその症例数もかなり増え、治療効果予測因子がある程度わかりつつあります。

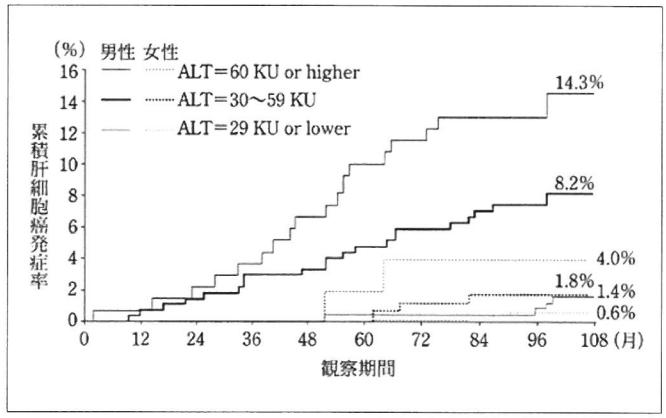
海外論文や、各施設から、たくさんの報告がありますが、一般的に高齢者（65歳以上）、女性、前IFN治療無効例、肝線維化進行例などはSVRは得られにくい事、つまり、ウィルスは消えにくい事がわかっています。特に高齢者や合併症でなかなか治療導入に踏み込めない症例は、ウィルスを消す目的のインターフェロン治療はなかなか厳しいのが現実です。しかし、最近ではそのような症例に対して、通常量よりも半分量や、4分の1量のインターフェロン投与を長期間行うことによって、ウィルスは消えないまでも、肝機能は正常化し、本来の目的である、肝臓癌になりにくくなるといった、いわゆる少量長期投与が行われ始めています。

では、この肝機能の正常化を図るインターフェロン治療は、強ミノやウルソとどう違うのか？ひとつの大きな違いは、インターフェロンで肝機能が正常化すると、腫瘍マーカーであるAFPの数値も下がることがわかっています。それに対し、強ミノやウルソで肝機能が正常化しても、AFP値は変化しません。現在、インターフェロン療法するには副作用の問題や、金銭的な問題から、強ミノとウルソ投与で週3回通院されている患者様は多いと思いますが、そういう患者様こそ、この少量長期投与が有効な場合があります。インターフェロンを通常量の半分量から4分の1量投与を週1回あるいは、隔週投与すれば、患者様の通院回数も減り、金額的負担もかなり少なくて済みます。

また、通常のインターフェロン＋リバビリン療法でも、投与開始後12週以降にウィルスが陰性化する症例は、SVR率は減少し、24週以降に陰性化する症例は、ほとんどSVRは得られないことがわかっています。このことから、米国NIHのコンセンサス・カンファランスでは、副作用と対費用効果から、このような症例に対しては治療中止を推奨しています。わが国ではそのようなガイドラインはありませんが、今後、このような症例に対しても、少量長期投与へスイッチする時期が検討されていくと思われます。



genotype 1b・高ウイルス症例におけるPeg-IFN a-2b/ribavirin併用療法のHCV消失時期とウイルス学的治療効果



ALT値別にみたHCV抗体陽性献血者の累積肝細胞癌発症率

※コンセンサス肝疾患2007
日本メディカルセンター社より引用

救命救急センターよりご報告（救命救急センター5周年）

救命救急センター
部長
高橋　毅

2003年の8月より救命救急センターの認可を受け、早いもので5年目を迎えることができました。これも一重に登録医の先生方からのご紹介のおかげと深く感謝申し上げます。

2006年度は約7000台の救急車受け入れと、約1900名の救命病棟入院がありました。これは救急車搬送が全救急患者の約45%を占めており、その半数が救命救急病棟に入院されていることになります。主な疾患としましては、脳血管障害430名、急性呼吸不全266名、急性心不全244名、急性中毒187名でした。

診療に関するトピックとしまして、4月から熊本市消防局と協力し、ドクターカーシステムの運用を開始致しました。当センターの近傍で発生しました重篤事案、救助事案等に対し当院の救急医師が救急救命士と共に現場におもむき医療活動を行います。特に救助事案では、現場で治療を開始することにより重症化を防ぐことができますし、患者さんに安心して戴けます。

また研究に関しましては、4月より厚生労働省循環器病研究としまして、「脳梗塞急性期の降圧に関する共同研究」を開始しています。急性期であっても高血圧が持続するならばARBにより降圧した方が予後が良いというヨーロッパでの報告を基に日本での検証になります。また、8月からは重症セプシスにおけるエンドトキシンアンタゴニストの治験を欧米各国と協力して開始することになりました。TLR4-D2レセプターを競争的阻害することにより各種炎症性サイトカインの産生を抑える働きがあります。

当院では、質の高い救急医療を目指しており、先進医療・先端技術の導入による最新救急医療の提供を心がけております。

今後ともご支援の程宜しくお願い致します。

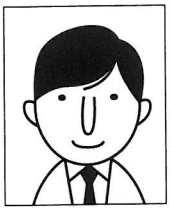
国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

登録医証は、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。発行をご希望の先生は、管理課庶務係（TEL 096-353-6501　内線390）までお申し込み下さいますようご案内致します。

写真は時間内であれば当院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、玄関前駐車場ゲートにて駐車券をお取り頂き、0番窓口（時間内）又は、時間外受付（時間外）にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

開放型病院登録医証



○○○医師会
熊本　太郎

平成19年1月1日交付
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. 駐車場を利用される場合は、この証を駐車場入口で提示して下さい。
3. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。

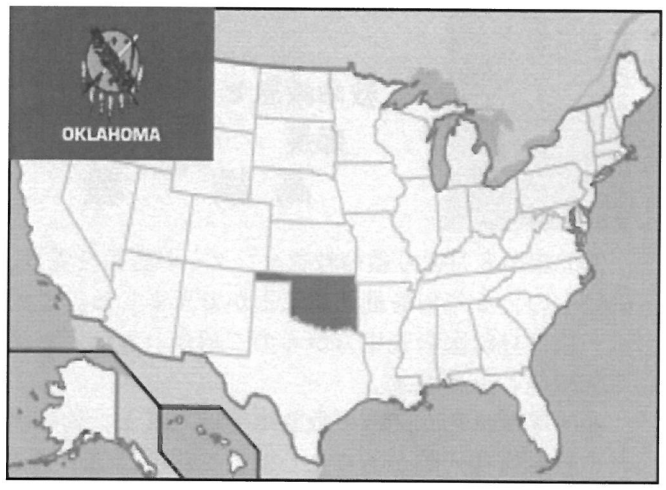
オクラホマ留学（遊学？）記

総合医療センター
血液・膠原病内科
井上　佳子

2005年6月から2007年3月までオクラホマ医科学研究所に留学しておりましたのでご報告させて頂きます。

まずオクラホマと言ってもあまり馴染みのない名前ですが、アメリカ中西部テキサスの北に位置し、州面積は日本の約半分ですが州人口は350万人と熊本県の約倍の人口です。オクラホマといえば、ほとんどの方が小・中学校の体育祭で踊るオクラホマミキサーというフォークダンスをイメージされるのではと思います。そのフォークダンスの曲が流れてきそうなのどかなところで、実際私が住んでいたオクラホマ州の州都であるオクラホマシティの中心部から20～30分ほど車で走れば見えてくるのは大草原と牛・馬のみでした。

さて、そのオクラホマに行くきっかけとなったのは、私が以前国立がんセンターの研究所に勤務していた時の先輩の先生方のご紹介でありました。その先生は奈良県立大学の肝臓内科所属ということもあり、留学先ではラットを使用して非アルコール性脂肪肝（Non-alcoholic steatohepatitis;NASH）における活性酸素の影響やそれに伴うアポトーシスについての研究をさせて頂きました。NASHは日本においても生活習慣病として注目されていますが、欧米では人口当たり2～3％、脂肪肝と診断されたうちの10％と日本人より発生頻度も多い疾患です。このNASHの特徴としては、症状もなく、他の脂肪肝との鑑別が困難で、かつ慢性的に肝硬変→肝癌に進行するような特徴があります。よって、私の研究も早期のNASHモデルラットにおける肝細胞の変化と、抗酸化剤を投与することでどう変化するのかを研究しました。結果は我々が使用したモデルラットにおいて早期に正常肝細胞がアポトーシスに陥り、抗酸化剤を加えることで抑制されることがわかりました。



その他にもがんセンター時代に知り合うことができた血液内科の先生のご紹介で、私の研究所のすぐ隣のオクラホマ大学病院の造血幹細胞移植病棟にも帰国前半月ほどですが週に1度外来やカンファに出席させて頂きました。驚いたのはスペースの広さとともにスタッフの多さと業務がとても分業化されていることです。特にナースの仕事はいろいろ分担されているようで、医者に代わって外来予診を行う人（レジデント以上によく病態を理解してます）、データを解析する人、移植のコーディネートをする人、そして一般の病棟業務を行う人といった具合です。また日本では移植の際の薬剤は保険適応外や未認可のものが多いのですが、そのような薬や治療法もどんどん使われていることもアメリカ医療の魅力の1つだと感じました。

留学先のオクラホマ医科学研究所

研修のご案内

第22回　ナースのための人工呼吸セミナー(会費制)

日時▶2007年8月4日(土)9：00～18：10
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

1. 呼吸生理と血液ガス　労働者健康福祉機構旭労災病院長　勝屋　弘忠
2. 呼吸管理と看護のポイント　国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・ICU室長　瀧　賢一郎
3. 慢性呼吸不全に対する非侵襲的人工呼吸と管理　国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長　森松　嘉孝
4. 各種病態における呼吸不全の治療　山口大学医学部附属病院先進救急医療センター講師・副センター長　鶴田　良介

〈実習〉人工呼吸器の取り扱い実習

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

第46回　シンポジウム「医療の将来」－医療連携と医療の質－

［日本医師会生涯教育講座5単位認定］

日時▶2007年8月18日(土)15：00～18：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

座長　熊本市医師会長　福田　稠

1. 医療制度の視点から　東邦大学医学部社会医学講座医療政策・経営科学教授　長谷川友紀
2. 地域連携クリティカルパスの活用効果　国立病院機構熊本医療センター統括診療部長　野村　一俊
3. 医師会の立場から　川野病院理事長　川野　四郎
4. 行政の立場から　厚生労働省医政局指導課長　佐藤　敏信

参加費は無料です。御来聴を歓迎します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

第85回　救急症例検討会（無料）

日時▶2007年8月22日(水)18：30～20：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

症例検討「感覚器疾患」　国立病院機構熊本医療センター感覚器センター耳鼻咽喉科医長　緒方　憲久

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター事務局　TEL 096-353-6501（代表）内線263　096-353-3515（直通）

第72回　三　木　会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）
［日本医師会生涯教育講座3単位認定］
［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜2群＞0.5単位認定］

日時▶2007年8月23日(木)19：00～20：45
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

1. 教育入院により食事療法の必要性を家族が再認識した糖尿病の1例　国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科　市原ゆかり
2. 多発性卵巣嚢腫を合併しPCOSが疑われた糖尿病の1例　国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科　佐田　公範
3. 糖尿病網膜症の診断と治療　国立病院機構熊本医療センター感覚器センター眼科　高野　晃臣

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長　東　輝一朗　TEL 096-353-6501（代表）内線705

第108回　看護卒後研修〈会費制〉

日時▶2007年8月25日(土)13：30～16：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

演題「患者と減らそう医療ミス」　NPO法人ヘルスケア・リレーションズ理事長　和田ちひろ

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副看護部長　杉原　三千代　TEL 096-353-6501(代表)内線656

2007年 研修日程表 8月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

8月	研修ホール	会議室	その他
1日(水)	18：00～19：30　第48回　国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会（公開）		17：00　消化器疾患カンファレンス　C
2日(木)			7：50　整形外科症例検討会　C 17～19　循環器カンファレンス　C 18～19　代謝内科カンファレンス　M
3日(金)			8：00　消化器病研究会　C 8：00　麻酔科症例検討会　手 17～18　救急部カンファレンス　C
4日(土)	第22回　ナースのための人工呼吸セミナー〈会費制〉 9：00～18：10 〈講演〉1．呼吸生理と血液ガス　労働者健康福祉機構旭労災病院長　勝屋　弘忠 2．呼吸管理と看護のポイント 国立病院機構熊本医療センター麻酔科医長・ＩＣＵ室長　瀧　賢一郎 3．慢性呼吸不全に対する非侵襲的人工呼吸と管理 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長　森松　嘉孝 4．各種病態における呼吸不全の治療 山口大学医学部附属病院先進救急医療センター講師・副センター長 鶴田　良介 〈実習〉人工呼吸器の取り扱い実習		
6日(月)			8：00　MGH症例検討会　C 16～18　泌尿器科病棟カンファレンス　別6 17～18　小児科カンファレンス　外来
7日(火)		18：00～19：30　血液病懇話会（図）	8：00　救急部カンファレンス　C 15～18　外科術前術後症例検討会　C
8日(水)			17：00　消化器疾患カンファレンス　C
9日(木)			7：50　整形外科症例検討会　C 17～19　循環器カンファレンス　C 18～19　代謝内科カンファレンス　M
10日(金)			8：00　消化器病研究会　C 8：00　麻酔科症例検討会　手 17～18　救急部カンファレンス　C
11日(土)			10～12　楽しく学ぶ基礎看護技術講座　学校
13日(月)			8：00　MGH症例検討会　C 16～18　泌尿器科病棟カンファレンス　別6 17～18　小児科カンファレンス　外来
14日(火)	19：00～20：30　熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18：00～19：30　血液病懇話会（図）	8：00　救急部カンファレンス　C 15～18　外科術前術後症例検討会　C 19～21　泌・放射線科合同ウログラム　C
15日(水)			17：00　消化器疾患カンファレンス　C
16日(木)			7：50　整形外科症例検討会　C 17～19　循環器カンファレンス　C 18～19　代謝内科カンファレンス　M
17日(金)			8：00　消化器病研究会　C 8：00　麻酔科症例検討会　手 17～18　救急部カンファレンス　C
18日(土)	15：00～18：00　第46回　シンポジウム　［日本医師会生涯教育講座5単位認定］ 座長　熊本市医師会長　福田　稠 「医療の将来－医療連携と医療の質－」 1．医療制度の視点から　東邦大学医学部社会医学講座医療政策・経営科学教授　長谷川友紀 2．地域連携クリティカルパスの活用効果　国立病院機構熊本医療センター統括診療部長　野村　一俊 3．医師会の立場から　川野病院理事長　川野　四郎 4．行政の立場から　厚生労働省医政局指導課長　佐藤　敏信		
20日(月)	19：00～20：30　第103回　月曜会（内科症例検討会） ［日本医師会生涯教育講座３単位認定］		8：00　MGH症例検討会　C 16～18　泌尿器科病棟カンファレンス　別6 17～18　小児科カンファレンス　外来
21日(火)		18：00～19：30　血液病懇話会（図）	8：00　救急部カンファレンス　C 15～18　外科術前術後症例検討会　C
22日(水)	18：30～20：00　第85回　救急症例検討会 「感覚器疾患」		17：00　消化器疾患カンファレンス　C
23日(木)	19：00～20：45　第72回　三木会 （糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会） ［日本医師会生涯教育講座３単位認定］ ［日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位＜２群＞0.5単位認定］		7：50　整形外科症例検討会　C 17～19　循環器カンファレンス　C 18～19　代謝内科カンファレンス　M
24日(金)			8：00　消化器病研究会　C 8：00　麻酔科症例検討会　手 17～18　救急部カンファレンス　C
25日(土)	13：30～16：30　第108回　看護卒後研修〈会費制〉 「患者と減らそう医療ミス」　ＮＰＯ法人ヘルスケア・リレーションズ理事長　和田ちひろ		
27日(月)			8：00　MGH症例検討会　C 16～18　泌尿器科病棟カンファレンス　別6 17～18　小児科カンファレンス　外来
28日(火)		19：00～21：00　小児科火曜会 18：00～19：30　血液病懇話会（図）	8：00　救急部カンファレンス　C 15～18　外科術前術後症例検討会　C
29日(水)	19：30～21：30　臨床口腔外科講演会 座長　熊本県歯科医師会副会長　上田　忠 「顎関節症のとらえ方」 九州歯科大学口腔顎顔面外科学病態制御学助教授 冨永　和宏		17：00　消化器疾患カンファレンス　C
30日(木)			7：50　整形外科症例検討会　C 17～19　循環器カンファレンス　C 18～19　代謝内科カンファレンス　M
31日(金)			8：00　消化器病研究会　C 8：00　麻酔科症例検討会　手 17～18　救急部カンファレンス　C

（図）図書室　C 病院本館２階カンファレンス　手 手術室控室　別6 別6病棟　外来 小児科外来　M ミーティングルーム　学校 看護学校

問い合わせ先　〒860-0008　熊本市二の丸１番５号　国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL　096-353-6501（代）内線263　096-353-3515（直通）